

# シンナカ彩生プロジェクト

沼津新仲見世商店街



SHINNAKA

## 団体概要

設立：昭和44年5月15日（アーケード完成の日をもって設立の日とする）

理念・ミッション：地域商業の振興を図る 商業者の地位向上と事業の安定と発展を図る

活動内容：アーケードの維持管理・共同販売促進活動・会員相互の親睦、啓発

所在地：沼津市大手町4-6-1 井草呉服店内

ホームページアドレス：<https://www.facebook.com/numazushinnaka>

連絡先：090-9365-3238（井草）

## 目的・背景

昭和44年に完成以来、約半世紀にわたり雨の日でも快適な買い物環境を実現してきた新仲見世商店街のアーケード屋根。老朽化のため、平成24年から撤去の検討を行うが、費用負担の面から当面の間は見合わせる事となった。しかし近年、屋根材が落下したり、照明器具が落下するなど人命にかかわるほどの事故も発生、再び撤去へ向けての検討を始めた。折しも、沼津市のリノベーションの取り組みにより、当商店街及び近隣に遊休不動産を活用した事業がいくつも生まれ、まちに変化の兆しが見えてきたこと、また他地域の商店街において、アーケードの撤去を伴う空間再編との活用の成功事例を学び、撤去することを商店街で決議した。

単にアーケードを撤去するだけでは商店街の魅力が低下することは確実のため、道路管理者である沼津市と連携し、賑わいや稼ぐ機能を備えた空間に再編、マネジメント組織や仕組みについて研究するために本事業を立ち上げた。

人が自然と集まりたくなるような心地よい空間、商店街以外の人でもイベント等を開催しやすい環境の整備を目指す。

## 実施概要

老朽化したアーケードを撤去して安全・安心で快適な環境を作るため、専門家を交えての調査・研究、関係者との協議・交渉を行った。

また、アーケード撤去後の道路空間の活用や仕組みについての検討、社会実験を行った。

# 方法・スケジュール

- **研究テーマの整理** 5/13 5/28  
商店街コアメンバーと市役所関係者で本事業の進め方に係る協議や関係事業の確認等を行った。専門家（一級建築士・飯田真幹氏）の参画のもと1～2週間に一度の定例ミーティングを開催することを決定した。
- **定例ミーティング** 6/4 ～ 3/27 計27回  
アーケード撤去工事、新たな街路灯の整備、東京電力などの架線業者や隣接する銀座通り商店街など関係者との交渉・協議、市が行う道路改良工事との計画調整、資金調達に関する検討・計画作成などを行った。
- **商店街全体ミーティング** 10/28  
これまでの経緯・状況の説明と意見聴取、方向性の確認を行った。
- **道路空間活用の社会実験** 11/1 ～ 11/29  
市と一般社団法人lanescapeと連携して道路上にテーブルとイスを常設、アーケード撤去後の道路空間活用の可能性や有効性について検証を行った。談笑する人、買い物途中で休憩したり荷物を整理する人、ミーティングを行うグループ、ギターや尺八の演奏をする人が見られた。
- **街路灯の試行実験** 1/10  
製造メーカー協力のもと、複数の機種を試行。デザイン、照度、色、設置する高さなどの検討を行った。
- **商店街イベントで当事業を告知** 12/14  
「昭和レトロ冬まつり」イベント当日に当事業の告知を行った。

# 考察・事業効果

専門家（一級建築士）の参画により、高度に技術的な協議をすることができ、関係者との調整・交渉にも有益であった。道路管理者である沼津市と連携したため、単なるアーケード屋根の撤去だけではなく、撤去後の空間再編・空間活用を含めて検討を進めることができた。

以上のことから、次年度から実際に工事を始める見込みを立てることができた。



専門家を交えた定例ミーティング 商店街全体ミーティングで意見聴取・方向性決定



新設するLED照明の試行実験で機種を選定

空間活用へ向けた社会実験

解体工事  
東京電力、他架線事業者  
マルス杉山興業、銀座通り商店街

新仲見世  
商店街

一級建築士  
飯田真幹氏

沼津市

空間再編・空間活用  
(一社)lanescape、  
レイバー鈴木智博氏  
岩崎電気(株)

# 今後の課題・自己評価

## 今後の課題

次年度（令和2年度）にはアーケード解体と街路灯改良の工事を行うため、解体計画の策定と業者の選定をする。資金調達の方法に関して、補助金、借入、地権者負担、クラウドファンディングなどを検討し、決定する。工事が円滑に行えるよう、関係者と調整しながら進めていく。また道路空間の活用について具現化し、商店街の持続的な賑わいにつなげられるよう検討を進めていく。

## 自己評価

撤去工事に関して、アーケード上に東京電力等の供架設備があり、その調整対応に多くの時間が費やされ、資金計画も大幅な見直しが必要になるなど、ハード面の検討・協議が大半を占めることになった。本ファンドを活用し、専門家や市関係者とともに検討を進められたことで、なんとか計画を前進させることができた。

撤去へ向けての見通しは立ってきたものの、撤去後の道路空間活用の組織や仕組みなど、ソフト面に関する検討が不十分のまま終了してしまい、具体的な方策が見通せていないため、次年度において検討を重ねていきたい。